

令和4年度第1回安全対策連絡協議会議事録

1 日時・場所 令和4年9月1日(木) 17時00分～18時00分

於：在東ティモール日本国大使館多目的ホール

2 出席者(在留邦人 25名、大使館6名、計 31名)

(1) JICA関係者 9名

(2) 国連関係者 0名

(3) NGO関係者 8名

(4) その他在留邦人 8名

(5) 大使館職員 6名

3 議事内容

(1) 領事・警備班からパワポ資料を使つての説明

イ 新型コロナウイルスの感染状況と対策について(坂本書記官より説明)

パワポ資料4

新型コロナウイルスの各国の感染状況についてWHOのサイトに掲載されている1週間ごとの感染者数のグラフを抜粋したもので、日本は第7波がおさまりつつある。専門家によると日本ではBA5からより感染力の強いBA.2.75への置き換わりが進んでいるとされ、しばらくの間感染者数が高止まりになっていた。

一方東ティモールでは第3波が終了し、それ以降は低い感染者数で推移しているが、8月に入ってから感染者が10名以上確認される日もあり、引き続き注意が必要。毎週火曜日に感染者数が多い傾向があるが、これは週末に感染して発症するのがそのあたりになるのではと推察される。また、8月31日現在の累計感染者数は23,170人でこれまで138人が亡くなっており、感染者数にはこれまで大使館が承知している25件以上の在留邦人(短期滞在者も含む)の数も含まれている。幸い重症化したケースは承知していないが、皆様の周りにも感染された方がいると思われるが、誰もが感染する病気として日頃から意識をもって生活されることが重要。

インドネシアの感染者数について第3波はオミクロン株の感染者が増加した時期で東ティモールも同じ時期に増加傾向が始まっており、すべてのウイルスがインドネシアから入ってくるわけでないが、国境も陸路で接しており同国と感染者数増加の関連性が確認でき、同国の傾向にも注視する必要がある。

パワポ資料5

コロナに感染した場合、どのように対処するかについてはまずは症状を確認することになるが、コロナの症状と一致するか、周り的人で感染者がいないか確認し、次に医療機関か国立研究所で検査してもらふ必要がある。たとえば数日前に蚊に刺された場合にはデング熱かも

しれないし、これは医療機関で検査しないと判断できない。外国人がよく利用しているスタンフォードクリニックに行けば、すべて検査可能で薬も処方してくれるので、ワンストップサービスで完了する。ただし、いろいろな検査をすると400ドル～500ドルもかかってしまう。簡易検査キットが当地薬局でも売られているので、病院に行っている時間がない方やコロナかどうか早く知りたい場合にはこのようなキットを利用してコロナ感染か否か調べるのも一案。

感染確認後にやることについてはまず、感染確認後、通常10日間の隔離期間が設けられるが、コロナウイルスの残存量によっては7日後に再検査に来るよう促される場合もある。その場合は再検査して陰性が確認されれば隔離終了となる。なお、検査機関である国立研究所は平日は8:30～16:00、土日は9:30～12:00の間に検査を行っており、混み具合にもよるが、午前中検査をすれば午後、午後検査すれば翌日に結果が判明する。感染が確認されればまず所属機関、保険会社、濃厚接触者等に連絡し、次に隔離期間中の生活をどうするのか考える必要がある。食事や生活必需品の入手に加え、自分の症状を確認する機材や薬などについて準備する必要がある。

隔離終了後は所属機関等に連絡、保険会社への請求手続き、後遺症への経過観察がある。味覚障害や倦怠感が継続する場合もあり、必要に応じて医療機関の診療を受ける必要がある。また、コロナ感染や隔離期間を過ごしたあと、自分に何が足りないのかわかるので、次回感染した場合に備えることができるようになる。

パワポ資料6

コロナ禍における海外在住において重要なことはまずは情報収集、当国の感染者数の増加傾向を日頃から確認し、予め自分が感染した場合、どの医療機関に行くか等調べて備えること。なお、当館ホームページにはコロナ関連情報を集めて発信しているので是非活用してほしい。

次に自分の健康管理と準備になるが、医療機関にかかると既往症や常用薬、アレルギーなど必ず聞かれるので、説明できるように準備する必要がある。またある程度の医療費や自宅療養のための薬や高熱で動けない場合もあるので簡単に食べられる保存食も確保しておく必要がある。

日本から来られた方は海外傷害保険に加入しているものと思われるが、クレジットカードに付帯した保険の場合上限額が低く設定されている場合もあるので注意が必要。自分が入っている保険でコロナに対応できるのか確認して欲しい。

帰国手段の確保については当地から帰国する場合、マレーシアやシンガポール、インドネシアを経由して帰国することになるが、当国の入国制度やフライト情報だけではなく、それら経由地の入国制限についても日頃から注視する必要がある。在留邦人にとって大事な情報についてはこれからも領事メールで発信する予定。

パワポ資料7

現在、日本に入国する72時間前までの陰性証明書を取得する必要があるが、陽性となり、通常の隔離期間を経たあとも陽性が続き日本に帰国できない帰国困難者が世界各国で発生し

ている。そのようなケースに対応するため、航空会社に対して搭乗できるよう領事レターを発行する場合がある。当館ではこれまで発行したケースはなく、水際対策の見直しで9月7日以降、有効なワクチン接種証明書(3回)を保持している場合は陰性証明書が不要になるので、このようなケースは少なくなると考える。

パワポ資料8

近年の主な感染症発生例については赤が現在も流行中のものであり、これだけ世界中で継続しているあらゆる感染症が存在する。新たにサル痘も加わり、現在東ティモールにおいてサル痘は確認していないが、コロナに加え注意すべき感染症として注目される。

ロ マーシャル・アーツ・グループについて（これ以降、伊藤警備対策官による説明）

(イ) MAGS（マーシャル・アーツ・グループ）の中にはこの国の多くの犯罪に関わっているグループが含まれる。また、MAGSの動向を把握しておくことは自分自身を守る上で非常に有益である。最近は特に、IKS（格闘技集団）と77（儀式芸術集団）のグループ同士の争い

が目立っている。

(ロ) 殴り合い、武器を使った喧嘩などに遭遇した場合は、巻き込まれることを避けるためにもすぐにその場を離れていただきたい。

ハ 洪水被害について

(イ) 今後の課題について

- ・携帯電話の平時からの充電の必要性
- ・モバイルバッテリーの携行
- ・重要物品の保管場所（パソコン、パスポート等重要物品は災害時、水損の恐れがあるため床付近に保管せず、高所へ保管すること）
- ・海岸付近の1階住居の居住は豪雨災害を考慮するとお薦めはできない。アパートメントタイプ2階以上の居住や住宅地が高地にあること、発電機、Wifiの完備を考慮して住宅を選択することが重要である。

(ロ) 総論

災害に遭遇した場合は、一番重要なことは、自分の身が一番大事であることから、まず何を避けても逃げることである。また、災害はいつも突然やってくるため、災害備蓄品を含めた日頃の準備が重要である。

ニ 犯罪に遭遇しないための対処（いかのおすし）

(イ) ついて**い**かない（見知らぬ人にはついて行かない）

(ロ) **の**らない（ナンバープレートがないなど、不審な車両には乗らない、公共交通機関の選択は慎重に）

- (ハ) おおごえをだす（身の危険を感じたらまず大声を出して助けを求める）
- (ニ) すぐにげる（「おかしい」「危険だ」などと感じたらすぐに逃げることが重要）
- (ホ) しらせる（すぐに近くの人や国家警察、知人に知らせる）

ホ 邦人の皆様へのお願い

- (イ) 異常事態に遭遇した際はまずは自分の身を守ることが最も重要である。
 - (ロ) 平素より異常事態に遭遇した時を想定し、準備（生活用品購入等）いただきたい。
 - (ハ) 現地スタッフ、ローカル警備員、オーナー等事務所関係者による現金（金庫）や鍵（金庫ダイヤル）の取扱いには十分注意を払うこと。（特に事務所等鍵は入居の際に必ず交換を依頼すること）
 - (ニ) 当地での安全・安心な日常生活を過ごすために、大使館と邦人の皆様と情報を密に共有していただきたい。
- (2) 杵渚大使より最近の東ティモールの内政、経済、外交に関する動きと我が国との関係につき約 30 分間講話を行った。

4 質疑応答（協議会終了後の懇談の中でいただいた質疑）

- (1) 当地でのコロナ簡易検査キットの入手先について照会があり、当館から、在庫があるか薬局に確認し、3つの主な薬局について案内した。
- (2) その他、大使館の図書館を開放して欲しいとの要望があった。

(了)